

第1回

文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ

The 1st Workshop on Digital Documentation of Cultural Heritage

趣 旨 :

コンピュータやインターネットを中心に、情報通信技術の発展と普及が進み、豊かなデジタル情報を誰でも利用できるようになってきました。また、レーザ計測やデジタル写真測量などの計測技術も急速な進歩を続けています。

文化遺産の修復、保存や考古学、歴史学、建築学などの分野においても、これら新しい技術を利用した文化遺産のデジタルな記録・保存（デジタルドキュメンテーション）と、新しい表現技術（ビジュアライゼーション）による利活用、公開の重要性に対する認識が高まっています。今日ほど日本国内における関連諸分野の連携が求められる時は無いと言っても過言ではないでしょう。

本ワークショップは、このような諸分野の連携の増強をめざして、文化遺産のデジタルドキュメンテーションとその利活用に関わる研究者、実務者、行政担当者らの情報交換と交流の場を提供しようとするものです。また、本ワークショップは、2009年に京都で開催される国際会議CIPA^{*}に向けて、国内の関係者の連携を発展させようとするものであり、本ワークショップ後も継続して開催し、さらに拡大していく予定です。

本ワークショップの主旨をご理解いただき、関連諸分野の多数の方々にご参加いただけますようお願い申し上げます。

CIPA (International Committee for Architectural Photogrammetry、<http://cipa.icomos.org/>)は、ICOMOS (International Council on Monuments and Sites)の国際委員会のひとつであり、ISPRS (International Society for Photogrammetry and Remote Sensing)と共同で1968年に設立された。CIPAは、最新の計測技術および表現（ビジュアライゼーション）技術の導入と普及による、文化遺産のドキュメンテーションと利活用の手法の改善をめざした諸活動を推進している。2年に1度、国際的な学術成果の発表を含む総会が開催され、2007年はアテネ、2009年は京都における開催が決定している。

主 催： 動体計測研究会（ARIDA）

協 力： 奈良文化財研究所

後 援： （社）日本写真測量学会、（社）日本測量協会、日本イコモス国内委員会

日 時： 2007年9月7日（金）（9:30～受付） 10:00～18:30

場 所： 東京大学生産技術研究所・A棟コンベンションホール(駒場リサーチキャンパス)

Web: <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/access/access.html>

参加費： 無料

ワークショップ終了後、懇親会を企画しています。ぜひご参加ください。（有料）

参加者： 文化遺産の記録、修復、保存および利活用に携わる国内の研究者、実務者、行政担当者など

【実行委員会】 委員長：高瀬 裕（株）キヤドセンター/CIPA役員）

委員：門林 理恵子（情報通信研究機構）、金田 明大（奈良文化財研究所）、藤野千和子（東京大学）